opusdei.org

聖ホセマリアのエピ ソード(1)「私は封 筒にすぎません」

創立者である聖ホセマリアの 人柄を浮き彫にするエピソー ドをシリーズでお伝えしま す。

2025/10/13

1970年代、教会は第二バチカン公会 議後の混乱の時期を過ごしていました。聖ホセマリアはそれに危機感を 持ち人々に正しい教会の教えを説く 必要性を感じていました。そしてス

ペイン語圏の中南米とイベリア半島 において司牧旅行を続けていまし た。そんな折の1975年2月4日、南米 での司牧旅行を終えベネズエラの首 都カラカスからスペインのマドリッ ドに向けて帰路につく飛行機の中で の会話をドン・アルバロが思い出と して語っています。「飛行機の中で 私たち(ドン・アルバロと聖ホセマ リア)の座席まである女性新聞記者 がやってきました。彼女は、オプ ス・デイが自分にとって素晴らしい 人生の助けとなってくれたことに感 謝しており、何としても一言、聖ホ セマリアに感謝を伝えたかったので す。オプス・デイのおかげでまず彼 女はカトリックの洗礼を受け、その 後、オプス・デイへの召し出しを受 けたのです。聖ホセマリアは彼女に すぐに答えました。「私たちは皆、 主に感謝しないといけないのです よ」。それでも彼女は個人的に何と しても感謝の意を伝えたかったの で、聖ホセマリアのおかげであるこ

とを強調していました。すると聖ホセマリアは愛情を込めつつもキッパリと話を遮りながら言いました。

「私に感謝するのは違います。神様はあるメッセージを手紙にしたため、それを封筒に入れる。それが届いた人は、封を開け、手紙を取りるです」。聖ホセマリアはこうして対筒はゴミ箱に捨てるて、自分が神様のメッセージを運ぶするとを強調しました」。 は同じたとえをことあるごとに繰り返していました」。

硲恵介

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-episode1/(2025/12/15)